北京で発行されている週刊誌「北京週報」1994年（平成6年）9月20日号の日本語版です。



# 王子ドルフィンズ、北京市宣武区を訪問

本誌記者　袁淑香
本誌東京特派員　白日昶

東京都北区立王子小学校の少年野球クラブ王子ドルフィンズは創立二十周年記念事業として、北区の友好区である北京市宣武区に総勢四十二名（うち、高学年部員二十三人）の友好親善交流団（丸山典義団長）を派遣し、八月二十三日から二十七日まで北京を訪問した。

王子ドルフィンズは、北京に到着の翌日二十四日、早速宣武区少年野球チームと交流試合を行った。王子小学校チームと対戦した宣武区チームは北京小学校と育才学校の野球チームで構成されたもの。午後二時半から、夏の強い日射しが照りつける北京青年湖グランドで試合が始まり、両チームは友好を第一とし、けんめいにプレーした。実力が五分五分で、試合は終始、緊張をきわめ、観客を興奮させた。結局、宣武区のチームが勝った。今回の試合を通じてお互いの理解を深め、友情を増進した。

王子ドルフィンズと北京第一実験小学校野球チームとの親善試合が二十六日午前八時半から始まった。北京第一実験小学校野球チームは発足してまだ一年間足らずのチームだから、今回の試合を相手に学ぶ絶好のチャンスと見なして対戦し、双方のチームは真面目プレーし、終始、最高のコンディションを保ちつづけ、王子ドルフィンズはさすが強いチームだけはあって、すべての豆選手がしっかりした技術を身につけ、チームワークがとれていた。結局、予測通り、ドルフィンズの圧勝となった。

試合終了後、丸山典義団長は「勝敗は重要なことでなく、九歳から十四歳の少年であるが、彼らは二十一世紀の日中友好関係の発展を担うものであり、日中友好は子供のころから始めるのが何よりも重要だと思います。今回の親善試合を通じて相互の理解を深め、世界に目を向け、これによって幼い時から世界の平和を愛する意識を育成し、将来、日中友好と世界の平和のために貢献しよう」と語った。

王子小学校と北京第一実験小学校との野球交流試合は、今回が初めてであるが、両校の関係は深い。十年前、王子小学校創立百十周年記念協賛会会長を勤めた丸山典義氏（七十一）と当時の校長が中国の小学校と交流を提案し、中国関係者の協力を得て、翌年には、北京第一実験小学校との交流が正式に決まった。それ以来、両校の間では、絵画や書などの交流が続いてきた。今回の野球交流ができたのも、主に丸山氏の力によるものである。

丸山氏は十五年前から東京都北区赤羽少年野球連盟会長を勤めてきた。同連盟には、王子ドルフィンズを含む六十三の野球クラブ（うち、高学年チーム三十七、低学年チーム二十六）が加入している。王子ドルフィンズが二十年前に創立以来、丸山氏はずっとその指導に当たっている。毎週の日曜日に、王子ドルフィンズの三つ（高学年二、低学年一）のチームが集まったとき、まず精神面の指導を担当する丸山会長が「訓話」をおこない、それから丸山隆司さん（丸山さんの息子さん）が少年たちをグランドで技術指導をおこなう。

丸山氏によると、少年の間で野球を普及させるのは、教育のためであり、心身ともに健全な子供を育成するためである。丸山隆司さんは「野球を通じて、忍耐力を培うこともできる。団体競技であって、みんなのことを考えなければならない。一人がわがままをすれば、チーム全体が乱れてしまう。したがって、いくら暑くても、疲れても、必死の攻防を堅持しなければならない」と語った。

王子ドルフィンズと宣武区少年野球チームとの試合

丸山氏はまた、野球交流を通じて国際理解・友好を深めることができると考えている。そのため、昨年、北京宣武区と交流することを考えた。さらに、北京実験小学校に個人でグローブ二十個、打者用ヘルメット六個、金属バット十本などを含む野球道具セット（二十二人分）を贈呈した。今回の試合で、北京第一実験小学校野球チームが使った道具は、丸山氏から贈られた物である。

宣武区と第一実験小学校の責任者は丸山氏の交流提案に賛同し、その好意に対し感謝状を送った。

交流団は北京滞在中、交流試合のほかに、宣武区少年野球チーム、北京第一実験小学校野球チームと交流会をもおこなった。

二十四日午前の宣武区少年野球チームとの交流会で、両国の少年達はそれぞれすばらしい出しものを披露した。王子ドルフィンズは中国の歌「海は古里」を歌った。特筆すべきことは、丸山氏がその場で日本の歌「古里の秋」を美しい声で歌い、ハーモニカで「丘をこえて」といろ曲を演奏し、交流会に花を咲かせ、人々を魅了した。交流会を通じ、両国の少年達は仲よしとなり、心と心が通じ合うようになった。

二十六日夜、同交流団は帰国の前夜、また北京第一実験小学校野球チームと交流会を行った。交流会で両校の少年達は非常に喜んでうさぎ跳び、椅子取りなどのゲームをたのしんだ。最後に丸山氏は感慨深げに「今晩は本当にうれしかった。これは日本の少年達の夏のいい思い出になり、生涯忘れることはないでしょう。少年達の間にまかれた友好の種は将来花が咲き、実がなることを念願しています」と語った。

交流試合と交流会の合間を利用して、交流団は万里の長城、故宮、天安門広場、天壇公園など北京の名所旧跡をも興味深く見学し、予想をはるかに超えたその雄大さに圧倒された。